

情報連携

ワークショップ・ワーキンググループのご案内

【開催の狙い】

- 流通経済研究所では、流通における情報連携をテーマとし、製配販及び関連事業者の実務担当者がかかえる課題の共有や未来に向けた取組について、立場を超えて議論を行う場として、「ワークショップ」と「ワーキンググループ」を設置しています。
- 参加者(事業者)間の創発を通じて、製配販各層単独では解決できない課題の解決や未来への協働を目指します。
- 日本の流通の未来を創るプラットフォームとなるべく活動を進めたいと考えておりますので是非ともご参加をご検討ください。

各回異なるテーマに関する講演と意見交換を行う「ワークショップ」と特定テーマについて年間で継続的な検討を行う「ワーキンググループ」の2つを開催します。両方又はいずれかご関心のあるものにお申し込み頂けます(2つのお申し込みで参加会費の割引があります)。

<今年度開催のワークショップ・ワーキンググループ>
2023年度は以下のワークショップ・ワーキングを開催予定です。

- ワークショップ:「流通とITの未来を考えるワークショップ」
- ワーキンググループ:「EDIワーキンググループ」

よくあるご質問

Q:ワークショップとワーキンググループの違い・相互の関係は？

A:ワークショップは各回異なるテーマで議論します。各テーマについての、現状や課題の共有、あるべき姿などの意見交換を目的としています。具体的な改善に向けた検討を行うためには、同じテーマで年間議論を継続していくことが必要となります。これをワーキンググループとして設定しています。

ワークショップでの議論から、あるテーマについて深く検討を行うため、新たなワーキンググループを立ち上げていく可能性があります。

Q:参加対象者はどのような企業や人になるのか？

A:小売業の情報システム部署・マーケティング部署、メーカー・卸売業の営業企画部署、情報システム部署、IT事業者の消費財・流通担当部署等のご参加を想定しています。

役職としては、責任者(連絡者)として部署の部長・課長クラス、参加者として若手～中堅社員のご参加を想定しています。なお、本研究会の趣旨にご賛同いただける方であれば、ご参加に制限等はございません。

Q:流通経済研究所の役割は？

A:流通経済研究所が主催する他の研究会とは異なり、ワークショップ・ワーキンググループは、担当研究員が調査報告する形式ではなく、参加者の皆様の議論・意見交換が中心となる会議体です。流通経済研究所は事務局として、円滑な運営のための支援をいたします。

2023年度ワークショップ・ワーキンググループ

流通とITの未来を考えるワークショップ

【開催概要】

「流通とITの未来を考えるワークショップ」は、製配販の実務担当者が流通とITの未来について、立場を超えて意見交換を行う場です。

<ワークショップとは>

各回テーマを設け、有識者・実務家からの講演と、参加者間での意見交換を行うことで、課題の抽出や対応方向について検討します。

- 各回テーマ完結型のワークショップです。
- 意見交換を中心に、参加者が主体的に参加していく会合です。
- 意見交換による参加者間の創発を通じて、1社単独では解決できない課題の解決や未来への協働を目指します。

<本ワークショップで取り扱うテーマ>

消費者の変化と対応する流通の変化、それらの変化に影響を及ぼすITという視点で「流通とITの未来」を捉えたいと考えています。具体的テーマとして今年度は以下のようなテーマを予定しています。

流通とITの将来展望と、これからの重要課題

小売業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)

海外における新たな流通・ITの動向とその評価

流通・物流の生産性向上と新たな流通ITの課題

開催日 : 7月、9月、11月、1月 (年4回)

開催時間 : 14時00分～17時30分(17:30～各回簡易懇親会あり)

開催地 : 東京

参加対象 : 参加企業に制限はありません。一般消費財を扱う製配販、IT関連企業の方のご参加を想定しています。各社1名取り纏め担当者に各回のご案内をお送りします。各回1社3名までご参加頂けます。

参加年会費:15万円(税別) ワーキンググループご参加とセットで25万円(税別)

ワークショップで取り扱うテーマ

本ワークショップは、流通とITの将来像を見通し、次の打ち手を考えることを目的に、各回のテーマを設定いたします。

コスト削減や標準化といった効率面からだけでなく、製配販で消費者の需要をいかに創造するかといった効果面からの検討も重要と考えています。

2023年のテーマ候補として以下を想定しています。参加者のご要望等により調整してまいります。

流通とITの将来展望と、これからの重要課題

人口減少・高齢化、人手不足・働き方改革、SDGs・ESG対応など、2020年代に流通が対応すべき事項はますます多用に、かつ重くなっています。そこで、EC・デジタル流通の拡大などの消費と流通の構造変化の方向を見通しつつ、流通とITの重要課題として、どのような取り組みを行うべきかを議論・検討します。

小売業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)

リアル店舗では購買時点のプロモーションだけでなく、顧客の購買履歴を踏まえた、来店前・店内・来店後のコミュニケーションが重要になっています。一方、ECは、顧客情報の収集・分析・管理、ロジスティクス、決済の各分野で進化を遂げながら、チャンネルとしてのシェアを拡大しています。リアル店舗・ECの融合も進む中、小売業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)をテーマに、新たな取り組み・事例を整理し、今後の方向や製・配・販の対応課題について検討します。

海外における新たな流通・ITの動向とその評価

海外、とりわけ米国と中国では、IT分野への研究開発投資が積極的に行われおり、新たな店舗の開発をはじめ、新たな流通の形態・取組みが登場しています。こうした先進事例は今後の流通に大きなインパクトを与える可能性があります。その成否についてはしっかりと評価しておくことが必要です。そこで、海外における新たな流通・ITの動向について、主要企業の取組みを中心に整理・評価を行い、今後の流通革新の方向性について意見交換を行います。

流通・物流の生産性向上と新たな流通ITの課題

流通・物流の生産性向上は重要テーマであり、製造部門に比して生産性の劣る流通部門では、特に改善が必要です。そこで、生産性向上策に関して、優先順位の高い重点課題・重点領域を見定めつつ、課題解決に向けたITソリューション(RFID、IoT、AI、ロボティクス等)のあり方、それらが導入された場合のEDIの課題について、意見交換を行います。

ワークショップの運営方法

< 運営方法 >

各回プログラムの構成

以下のような構成で年4回の会合を開催します。

- (1) 有識者・実務家からの基調講演 (14時 - 15時15分)
 - ・各テーマに即した有識者、実務家に登壇頂き、最新動向等についてお話を頂きます。
 - ・講師との質疑応答も十分に行います。
- (2) 意見交換 (15時30分 - 16時50分)
 - ・グループに分かれて、テーマに関連した自社の取り組みや課題等を様々な立場から共有頂きます。
 - ・意見交換の方法として、以下のような形で議論頂きます。
 - ・各社現状の共有
 - ・あるべき姿の検討
 - ・あるべき姿に向けた課題と解決方向
 - ・意見交換の内容・結果をパワーポイントにおまとめ頂きます。
- (3) グループ発表・ディスカッション (16時50分 - 17時30分)
 - ・意見交換頂いた内容を発表頂きます。
 - ・発表内容に基づき、参加者でディスカッションを行います
 - ・発表頂いた資料等は会員ホームページで共有します。
- (4) 簡易懇親会 (17時30分 - 18時30分)

流通経済研究所の役割

- ・プログラム企画・会合の司会進行を流通経済研究所が担当します。
- ・また、テーマに関連する資料を提供します。

担当: 加藤 弘貴 流通経済研究所 専務理事

(参考) 昨年度ワークショップの開催実績

回	内容
第1回	<p>テーマ:「流通・物流の標準化」</p> <p>次世代の物流としてのフィジカルインターネット実現に向けた、さまざま領域における物流データの標準化の取り組みについて考えました。</p> <p>基調講演講師 GS1 Japan 森 修子 氏</p>
第2回	<p>テーマ:「物価高と流通の対応」</p> <p>消費生活に影響を及び、喫緊の課題となっている物価高に対して、流通各層がとるべき施策、実践、および製配販協働の可能性について考えました。</p> <p>基調講演講師 (公財)流通経済研究所 客員研究員 / 玉川大学教授 神谷 渉</p>
第3回	<p>テーマ:「小売業のビジネスモデル革新」</p> <p>デジタルトランスフォーメーション(DX)に向けた取り組みが広まる中、これからの小売業のビジネスモデルの変化とメーカーのマーケティング対応について考えました。</p> <p>基調講演講師 (公財)流通経済研究所 理事 / 中央大学大学院教授 中村 博</p>
第4回	<p>テーマ:「リテールにおけるデータ活用」</p> <p>ID-POSデータを始めとするさまざまなデータを、小売の現場で活用していくための考え方や視点について、事例を元に考えました。</p> <p>基調講演講師 株式会社True Data 執行役員 越尾 由紀 氏</p>

ワークショップの特徴

1. 立場を超えたフラットな議論の場

本ワークショップは、役職や企業の立場を超えて、各テーマについて現状を共有し、あるべき姿とその課題解決に向けた方向性を議論する場です。企業としての公式な立場ではなく、それぞれの担当者としての考えや本音を共有することで、より実務に役立つフラットな議論の場として展開したいと考えております。

2. 基調講演と参加者による情報共有と討議

テーマに即した有識者・実務家からの情報に加えて、テーマに関連する参加者が集まり少人数のグループに分かれて情報共有・意見交換を行うことで、具体的かつ実務的な情報を共有することができます。普段関連テーマについて他の立場の実務担当者とは意見交換する機会がない方にとっては、刺激を得られる貴重な機会となることでしょう。意見交換した内容は、発表資料として取りまとめて頂きますので、後日社内での報告等にご利用頂けます。

アウトプットイメージ

意見交換した内容を
発表して頂きます



商品マスタ共有に関わる三層での課題 次世代に向け、必要な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 品名登録のルール(レシートなど文字数制限があるためルール化)が徹底されない。システム化した 海外では品名などかなりシンプル。日本はオーバースペックでは。GDS(商品マスタ同期化)でレシート名称を標準化しようとしたが断念した 一方、ネット等では文字数制限等ないので自由にできる 日本はマンパワーで回せてしまう。逆に標準化の必要性がなくなってしまうし、高コスト、人力では限界がある。商品説明やURLなどの情報を人間が手でつかうか？ システムTOシステムにしていけないと、ネットスーパー等の品数が増えていかない VANIはメーカー、卸間、小売と卸、小売とメーカーがなかなか標準化されない 共通以外でいろいろやりすぎているので、相対のやりとりが必要になってしまう VANを小売も含めて利用というのは今後の展開としてありうるのでは ただVANを使っていないメーカーも多い 大手ネット事業者等にルールを押し付けられる前にルールを決めておく必要がある メーカーとしては、良いか悪いかは別としてネット事業者にもなんでもルールを決めてもらったほうが楽という側面がある 海外は市場の寡占具合が高いので少数の会社で標準を決められるが日本ではメーカーも小売も数が多く少数の会社では決められない。 逆に数が多いからこそ、ひとつのデータプールを共有することの効果は大きいはず

3. 人脈形成・教育効果

普段接しない他企業の部署のメンバーと議論することにより、本ワークショップ以外の場での活動につながる効果も期待できます。また、社外の人材や他社の文化との接触を通じて、自己啓発や教育的効果も期待できます。

<ワークショップ参加者の声>

ワークショップの参加者の声をご紹介します。

- ・問題点が共有出来て有意義でした。(小売業)
- ・製配販三層の議論はあまり機会がないので有意義だった。(メーカー)
- ・大変有意義な情報交換が出来て良かったです。(卸売業)
- ・三層あげての行政への提案など共通で実効出来る様になればと考えます。(IT)
- ・普段とは違う視点で、テーマを深耕できた。(メーカー)

2023年度ワークショップ・ワーキンググループ

これからの情報連携を考える
EDIワーキンググループ

【開催概要】

製配販における情報連携をテーマに、より効果的に情報連携を促すための標準的業務モデルやEDI標準の検討を行う参加者主体型のワーキンググループ(WG)です。年間10回程度の会合により議論検討を行い、成果を取りまとめます。

<今年度研究テーマ>

下記のテーマを中心に議論を行う予定です。

新たな情報を有効活用するための情報連携の研究

今後を見据えた新たなEDIの研究

テーマ詳細は参加者合意のもと調整いたします。

<EDI(電子データ交換)とは>

異なる企業間で、商取引のためのデータを、通信回線を介して標準的な規約(可能な限り広く合意された各種規約)を用いて、コンピュータ(端末を含む)間で交換することを指します。

EDIワーキンググループでは、受発注等の基幹EDIの範囲のみならず、より幅広い企業間データ交換を研究対象としています。

開催日: 年10回。初回会合(6月)にて、次回以降のスケジュールを決定します。

開催時間: 各回14時00分～17時00分 (会合により時間は変動することがあります)

開催地: 東京

参加対象: 参加企業に制限はありません。1社最大3名まで登録ご参加頂けます。年間での継続的なご参加を前提とし、参加担当者を設定頂きます。営業企画部門、情報システム部門、ネット事業部門の方などのご参加を想定しています。

参加年会費: 15万円(税別) **ワークショップご参加とセットで25万円(税別)**

本WGの特徴

1. 協働の歴史の中で培われたWG

本WGの前身は、製配販が集い活動を行ってきた日本GCI推進協議会(GCIジャパン)のEDI-WGです。GCIジャパンで培われた協働の精神やユーザー主体型の運営方式は引き継いで活動を運営していきます。参加者間の自主的な交流・懇親会も積極的に行われており、協働を生み出すプラットフォームとしても期待できます。

2. 立場を超えたフラットな議論の場

本WGは役職や企業の立場を超えて、あるべき姿とその課題解決に向けた方向性、方法を検討する場です。業界団体・組織では企業の代表としての意見を求められることが多いため、意見集約の難しさがあります。一方、本WGではあるべき姿と実務上解決すべきハードルに焦点をあてることで、よりフラットな立場で検討できるところに特徴があります。

3. 最新情報の共有

他の企業における事例の共有や団体の動き、海外の動向など、参加者間の情報共有を通じてEDIや流通BMSを取り巻く環境変化をいち早く知ることができます。これにより、情報連携に関連する業界としての動きやトレンドへの対応を自社として検討する際、参考となる情報を得ることができます。

4. 人脈形成効果

普段接しない他企業の部署のメンバーと共通の目的で継続的に議論することにより、その場限りではない深く幅広い人脈が形成されます。その結果、本WG以外の場でも企業同士の協働や取組につながる効果が期待できます。製配販の様々な企業とのネットワークを持つ人材は各社においても貴重な存在となると考えられます。また、WGの中でリーダー等として取りまとめを行っていくことで、ファシリテーション技術向上、主体性の発揮など教育的効果も期待できます。

WGでの検討予定内容(2023年度)

1. 新たな情報を有効活用するための情報連携の研究

今までにないマーケティングの研究

消費市場の分析は商品中心のPOSデータから生活者中心の購買データに変わろうとしています。購買時点だけにとどまらず、使用時点～廃棄までを捉えてみると、消費の全貌が見え今までと全く違ったマーケティングへとつながってきます。いま、スマートフォンの普及や画像認識等技術の発達により、新たに多くの情報が取得可能となりましたが、、

個別の取組(企業、情報毎)の限界を把握

購買情報の活用できるシーンの拡大と得られるメリットの推定

導入投資コスト程度に応じた業界利益の研究

購買データ活用のポータルやプラットフォームの普及方法の研究

RFID・電子レシートについての実証実験状況の把握

実際の事例研究(現場視察など多数実施実績あり)および、標準化等に関する情報収集、経済産業省ほか省庁・研究団体との情報交換

などが必要であるとして研究を展開し、関係各所に提言をおこなっています。

生活者が得られるメリットの研究

購買データは生活者 = 消費者のそれぞれ個人から承諾を得て、活用させていただくこととなります。そのためには相応のメリットをお返ししなければなりません。

そこで、、

個別の生活者に最適化されたレコメンデーションの研究

情報提供いただいた生活者の方に対する特別なプロモーションの実現

ブランドのファンになっていただいた生活者との繋がり方についての研究

家庭内在庫管理(また、その実証実験や同様の研究者との情報交換)

購買データ提供のための生活者向けポータルサイトの機能要件の策定

スマートシティ・プロジェクト等との情報交換(現在継続中、追加も検討中)

などを整えていく必要性があるとして研究を展開しています。

WGでの検討予定内容(2023年度)

2. 今後を見据えた新たなEDIの研究

未来のEDIの研究

EDIは企業間のデータ交換から始まりましたが、社会環境の急激な変化にともない、より高度な標準化やリアルタイム化が急速に求められています。また、データ交換も企業間のみにとどまらず、製造者から、配送者、販売者、そして生活者(購買者や消費者)までを含めた大きな輪と捉え、これから来るライフスタイルの大きな変化に対応するための新たなEDI像を検討する必要があります。

それは、、、

- 安全なショッピング・受け取り・その他の処理を約束するEDI方式の研究
- ショッピングのAI等による補助(ポータル運営やデータごとの引越支援など)
- ラストワンマイルを効率化するフレームワークの研究
- 物流関連企業との情報交換
- ダイナミックに商品を受け取るモデルの実現可能性の研究
- 未来生活の研究

などの研究を通して、未来の想像を現実へと変えていきます。

緊急復興EDI(流通全体)の研究

平常時のEDIのモデル研究の中で生まれた、災害時の企業・個人間のデータ交換の要件。これをさらに深耕し、具体的なモデル化を図ろうと研究を進めています。その活動内容は、、、

- 流通業・製造業の支援物資の供給手配・要望とのマッチング等の仕組み
- 支援物資の無駄削減(廃棄・不使用)、メリット解説、使用方法の伝達の研究
- 流通業界側にある商品知識の効果的・効率的伝達方法の研究
- 国土交通省、経済産業省ほか関係省庁(内閣府含む)との情報交換・提言
- 防災・被災対策の専門家等との情報交換

となっており、技術革新も激しい為さらなる研究を進める予定です。

テーマ詳細は参加者合意のもと調整いたします。

ワーキンググループの運営方法

< 運営方法 >

参加者自らが自主的に運営していくところに本会合の特徴があります。

会合の運営

- ・参加者より、ワーキンググループの座長を選出頂きます。(2年任期)
- ・座長がワーキンググループの運営を行います。必要に応じて、座長が副座長等を指名して運営を行います。

議論のスタイル

- ・会合のリーダー(座長、副座長等)の進行により議論を進めていきます。
- ・会合は10回程度開催します。必要に応じて自主的な会合を開催します。

会合の進め方

- ・まず参加者間の共通認識を得ることから始めるため、テーマに関するこれまでの検討や動向のレビューを行います。
- ・その上で、残課題・検討課題を確認し、その課題解決に向けた具体的な検討を複数回かけて行っていきます。
- ・成果報告会を開催し、WG参加者以外の会員企業の皆様にもご参加頂き、1年間の活動成果を報告します。

流通経済研究所の役割

- ・参加者の募集、名簿の管理、案内・出欠確認、会場手配・設定(10回分の会合)、会員向けホームページ等の管理を行います。
- ・WGの外部に向けた情報発信活動を支援します。
- ・WG座長と連携し、進捗の確認を行います。

成果物の共有

- ・年間で取りまとめた成果(データ等)は会員に対して電子媒体の送付及び会員ホームページ上で共有します。

ご参加方法

- (1)参加者ご登録のお願い
 - ・ご参加に際し、年間でのご参加者のご登録をお願いいたします。3名までご登録いただけます。
- (2)各回ご案内とご返信
 - ・各回ご参加者にご案内をお送りしますので、出欠を返送ください。

お申し込み

「情報連携ワークショップ・ワーキンググループ」 参加申込書

申込日 2023年 月 日	FAX: 03-5276-5457		(公財)流通経済研究所 WG・WS担当(中田) 行
貴社名			
申込会合名 (参加会合の番号に丸印を付けてください)	1. 流通とITの未来を考えるワークショップ(WS) 会費15万円 + 消費税 2. EDIワーキンググループ(WG) 会費15万円 + 消費税 WS・WGの両方にお申込みの場合は、25万円(割引価格) + 消費税でご参加いただけます。		
取り纏めご担当者 お名前		ご所属・ お役職	
E-mail			
所在地	〒 -		
お電話番号	()		

ワークショップ(WS)のご案内は、取り纏めご担当者の方にお送りします。

以下、ワーキンググループ(WG)参加申込み企業のみご記入ください(3名まで登録可)			
WG出席予定者 お名前		ご所属・ お役職	
E-mail			
WG出席予定者 お名前		ご所属・ お役職	
E-mail			
WG出席予定者 お名前		ご所属・ お役職	
E-mail			

ご記入いただいた個人を特定できる情報については、以下の通り利用させていただきます。

お申し込みいただいた研究会・セミナー・報告書等の事務処理に必要なご連絡、ご請求

公益財団法人流通経済研究所からの各種情報のご案内

に関して配信停止、ご登録内容の変更は、お電話又は下記専用ページからお願いいたします。

<http://www.dei.or.jp/dm/index.html>

なお、配信停止には多少お時間がかかる場合がございます。行き違いでご案内が届きました場合は、ご容赦いただけますと幸いです。



お問い合わせ先
公益財団法人 流通経済研究所
情報連携ワークショップ・ワーキング担当: 中田
〒102-0074 千代田区九段南4-8-21 山脇ビル10F
03-5213-4531(代) FAX: 03-5276-5457
ワークショップ: workshop@dei.or.jp
ワーキンググループ: working_group@dei.or.jp